第 4 回 苫小牧市行政改革推進審議会 議事録

1. 開会

事務局：それでは定刻となりましたので、ただいまから第 4 回苫小牧市行政改革推進審議会を開催いたします。本日の審議会でございますが、16 時頃の終了を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。なお、一関委員からは本日都合により欠席、それから中田委員につきましては遅れての参加ということでご連絡をいただいているところでございます。

　またいくつかご報告がございます。初めに本審議会の録画配信についてでございます。事前に委員の皆様にはお伝えしておりますけれども、今年度から審議会も録画配信を本格実施することとなりましたので、本審議会も本日の開催分から録画配信をさせていただきます。

　続きまして、この度ネットワーク苫小牧の酒井委員が、都合により退任をされることになり、その後任といたしまして、同じくネットワーク苫小牧の原田さんに委員をお願いすることとなりました。任期につきましては残任期間であります令和 9 年 9 月 23 日までとなります。それでは原田委員より一言ご挨拶を頂戴できればと思います。

原田委員：（就任挨拶）

事務局：ありがとうございました。次に、このたび市の組織機構改革により、審議会の事務局が総務部行政監理室から財政部行財政改革推進室へと変更になりましたので、紹介をさせていただきます。初めに財政部、山口部長でございます。

山口部長（財政部）：山口でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

大宮室長（行財政改革推進室）：私は、行財政改革推進室の室長の大宮でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

事務局：それから財政担当の川本課長でございます。

川本課長：よろしくお願いいたします。

事務局：また総務部 ICT 推進室が総務部 DX 推進室へと名称変更となりまして、引き続き担当をさせていただくことになりますのでよろしくお願いいたします。

---

2. 会長挨拶

事務局：それでは審議会の開催にあたりまして、関根会長からご挨拶をお願いしたいと思います。会長どうぞよろしくお願いいたします。

関根会長：皆さんこんにちは。今日はお忙しい中、審議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。令和 7 年度からとまこまい行革創成プランの取組が始まっておりますが、その初年度の進捗状況が、今回事務局の方から示されているところでございます。前回の審議会で、この進捗状況の評価方法について審議を行わせていただきまして、委員の皆様からいただいた意見をもとに評価方法を決定したということでございます。今日、質疑を踏まえまして、進捗状況につきまして委員の皆様に後日ご意見をいただいて、それを意見書として苫小牧市長に提出したいと思っております。皆様には本日も忌憚のないご意見をお聞かせ願えればと思います。

事務局：ありがとうございました。それではここからの議事進行につきましては、関根会長にお願いをしたいと思います。

---

3. 議題：とまこまい行革創成プラン　令和 7 年度進捗状況について

関根会長：それではですね、本日の議題でございますとまこまい行革創成プラン令和 7 年度進捗状況についてということで、まずは事務局からご説明をお願いしたいと思います。

事務局：はい、それでは進捗状況について説明させていただきます。着席にて説明させていただきます。委員の皆様には資料を事前に電子メールまたは郵送で送付させていただき、本日同じ資料をお配りしております。資料を送付した際にご持参をお願

いしております、とまこまい行革創成プランの冊子につきまして、本日お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか？

それでは、行革創成プランの令和 7 年度の取組の進捗状況について説明させていただきますが、お時間の関係もございますので、全ての項目についての説明は省略させていただき、主な取組を中心に説明させていただきます。

プランの構成と評価について（資料 4-2）

本プランは9つのテーマを設定しておりまして、テーマに関連する 56 の取組項目で構成されております。56 の取組項目はそれぞれ複数のテーマに関連付けられておりますが、本プランでは、最も関連性の高いテーマに取組項目を位置づけて取組を推進しております。

審議会では、担当部署が行った取組の自己評価を基本としまして、委員の皆様に評価を行っていただき、最終的にはテーマごとに取組の効果や有効性の検証を行っていきます。今回、令和 8 年度は令和 7 年度の進捗状況の評価を行うこととなります。

担当部署の自己評価として**「利便性・サービス」「業務効率・働き方」「費用対効果」「将来的価値」**の４つの評価項目を設けております。

事前質問への回答（資料 4-5）

質問 1（1）：評価項目ごとの自己評価について、テーマ項目自体の価値を評価しているものと、現段階では低評価としているものが混在しているように感じる。
回答：今回は計画が始まってから最初の自己評価であったため、各部署において、この事業がいかに重要かと現在の立ち位置の双方が評価に反映された結果です。担当部署による自己評価ですので、数値が実態と合わないと感じる点は、委員の皆様の客観的な視点から意見シートにてご指摘をお願いいたします。

質問 1（2）：費用の提示がないので各部署の課題に対する真剣度が不明。
回答：取組の内容によっては費用が算出できないものがございます。財政効果額については、プランの取組期間終了後にお示ししたいと考えております。

質問 1（3）：外部委託が増えているが、以前と以後の費用対効果の一覧はどこで確認できるか。
回答：財政効果額については、プランの取組期間終了後にお示しいたします。

質問 2：利便性サービスの自己評価について、無人化や委託によりサービスを維持できるものはポジティブ評価をしてもよいのでは。
回答：担当部署による自己評価ですので、意見シートにてご指摘をお願いいたします。

質問 3：進捗実績の算出方法を教えてほしい。
回答：原則として最終的な目標達成を 100%とした際、各年度の工程に照らして、現時点でどの地点まで到達したかを数値化したものです。

質問 4：基金の運用について、当初 3 億円を計画していたが実際は 4 億円。次年度以降の計画を前倒ししたのか。
回答：プラン策定当初は毎年 3 億円を運用する計画でしたが、金利上昇などの社会経済情勢と市の資金繰り状況を鑑み、短期間の運用も実施することとしたものです。

質問 5：広告料収入・ネーミングライツの+4.7%について、件数増と単価増の内訳は。
回答：令和 5 年度と令和 7 年度で件数が同数であるため、単価増が要因です。

質問 6：町内会合同事業の具体的内容と目標数値は。
回答：町内会同士の交流促進のため、合同実施した行事の費用の一部を助成しています。予算は 3 件分確保しており、現状の目標は 3 件です。

質問 7：新たな企業誘致手法の展開について、進捗率 40%の評価理由と継続性について。
回答：令和 7 年度から新規開始のため、進捗率 40%として評価。企業誘致は時間を要することから、継続して実施体制を整えていきます。

質問 8：JFE サイクルプラザ苫小牧について、令和 8・9 年度の目標に変化がないのに進捗%が増加するのはなぜか。
回答：令和 8 年度は開館準備および半年間の事業実施、令和 9 年度は年間を通じた事業実施のため、進捗が進むと判断しています。

質問 9：公的不動産の積極活用について、令和 7 年度年間収入 7.8 億円の内訳と令和 6 年度対比、未利用不動産数。
回答：申し訳ございません、貸付収入の記載が漏れておりました。売払収入 7.8 億円、貸付収入 4 千万円で合計 8.2 億円です。令和 6 年度は売払収入 8.8 億円、貸付収入 4 千万円。主な未利用不動産は、ウトナイ地区の工業団地、矢代町の道路管理事務所跡地、のぞみ町の給食センター跡地などです。

質問 10：公的不動産の積極活用と生成 AI が既に令和 11 年度目標を達成。新たな目標は。
回答：不動産はウトナイ地区で数億円の工業用地が成約したことが要因。大型案件は少なくなってきており、新たな目標設定は次年度以降に検討します。生成 AI は、回答精度の向上と継続的な研修により、職員の認知度や活用スキルが想定を上回るスピードで浸透したことが早期達成につながりました。

質問 11：小・中学校規模適正化の推進について、児童・生徒に生じる不公平感への対処は。
回答：通学先が変更となる児童生徒には、スクールバス運行や自転車通学、交通費補助の検討、統合先の学校との事前交流などにより準備してまいります。

質問 12：生成 AI の利活用について、業務削減時間の計算方法と活用範囲は。
回答：令和 7 年度末の効果測定アンケート結果を集計したもので、週 3 時間以上の効果があったとの回答が 13.1%に上りました。活用範囲は文書関連業務が多く、チャット型生成 AI との親和性が高いと感じています。

質問 13：フリーアドレスなどの和製英語は外国人の理解にも問題となる。正式な英語を使用しないか。
回答：ご指摘の通り、英語圏の方には誤解を招く可能性があります。取組項目名は確定済みですので、今後は意見書の脚注欄に解説を記載するなどの対応を行ってまいります。

主な取組の説明（資料 4-1）

- **取組項目 1（税外収入の拡大／ふるさと納税等の拡大）**：返礼品拡大の補助制度を前倒しで導入。
- **取組項目 16（デジタルディバイド対策の充実）**：スマホ講座を週 3 日→週 4 日、開催場所 11 箇所→15 箇所に拡大。
- **取組項目 21（持続可能な町内会活動の推進）**：電子回覧板ツールに関する研修会を実施し、2 町内会で電子ツールを導入。町内会合同事業に対し費用の一部を助成。
- **取組項目 26（車両管理業務の在り方の検討）**：既存システムを活用し、自前で予約管理システムを開発、試験導入。
- **取組項目 33（小・中学校規模適正化の推進）**：令和 7 年度に苫小牧市立学校再編ビジョンの素案を策定。当初の令和 11 年度から前倒しし、令和 8 年度の策定を目指す。

- **取組項目 43（フリーアドレス化に向けた環境整備）**：庁舎内のモデルフロアで端末環境を整備し、フリーアドレス化を実施。
- **取組項目 51（政策型スクラップ＆ビルド）**：事業の効果など様々な視点から事業の見直しを実施。

時間も限られていることから、全てをご説明することができませんでしたので、審議会終了後に質問などが出てきましたら、ぜひお寄せいただきたいと思います。説明は以上でございます。

3-2. 質疑応答

関根会長：説明ありがとうございます。今ほど行革創成プランの令和 7 年度進捗状況シートについて、いくつか主だったものについてのご説明と、事前にいただいた質問に対する回答ということで事務局からお話がございました。皆さん、進捗状況シートについて、あるいは事前質問について、ご意見ご質問等あれば頂戴したいと思います。

関根会長：はい、工藤さんお願いします。

工藤委員：今の説明ありがとうございます。私、ちょっと見ていて、進捗計画と進捗実績、これのパーセンテージがちょっとしっくりこないんですよね。というのは、5 年度にわたって令和 7、8、9、10、11 年ですけれども、進捗計画が 10%、30%、60%、80%とかけて、2 ページのところで、それに対して進捗実績は 50%というのは、5 年間の間で令和 7 年度は 50%ですよという説明だったかと思うんですけれども、そうではなくて、令和 7 年度に 10%の進捗計画があるのであれば、それが達成されているのであれば、進捗実績も 100%でいいのではないかなと思うんですよね。その中にちょっと「進捗状況」という項目を縦に 1 個設けていただければ、もっとわかりやすいんじゃないかなと思ったんですが、いかがでしょうか？

事務局：ご意見ありがとうございます。こちらは進捗計画および進捗実績ともに、この取組のゴール到達目標が達成される年度を 100%として設計してございます。2 ページ目の例で申しますと、令和 7 年度から 11 年度まで 5 年間それぞれ進捗計画がございまして、令和 7 年度はもともと情報収集のみ行う予定だったのが、情報収集と補助制度の導入まで行ったので、実績としては 100%のうちの 50%まで達成したという作りになっております。確かにもっとわかりやすい様式もあるかと思うんですけれども、前回の審議会でこのやり方について決めさせていただきましたので、今回このように進めさせていただければと思います。

関根会長：見方の問題があると思うんですが、全体の見方として最終的な目標を 100 として見た場合ということで、工藤さんのおっしゃることもわかるんですけど、それで見てどうなのかという形で考えていただくと、今のものでいうと「5 年間で 100 のうち 50 まで行きましたよ」ということだと思うんです。全体の見方としてそういう形でちょっと眺めていただければと思いますので、その辺はよろしくお願いいたします。

関根会長：他に何かございますでしょうか？はい、お願いします。

松尾委員：進捗状況シートで、ちょっと気になったところなんですけれども、資料 4-2 の 2 ページに評価基準が載っているんですが、進捗状況シートにある「利便性・サービス」という項目について、他のものをいろいろ見ていくと、結構評価がまちまちかなと感じていました。例えば資料 4-1 の進捗シートの 40 番など、評価の理由の中身を読んでいると、同じような評価、同じようなコメントや理由なのに、評価数値がばらばらな感じなのが、ちょっと気になりました。

事務局：ご指摘ありがとうございます。今お話いただいたご指摘については、資料 4-5 に載せさせていただいています、質問 1 の全般についての質問でも同じようなご指摘いただいております。やはり自己評価ですので、各担当部署によって自己評価が高かったり低かったりというのもございますので、その点を意見シートにてご指摘いただきたいと思っております。

関根会長：なかなかこれ、横串を刺すのは難しいという気がするんですが、各部各部で独自にやっていただいているということですから、そういうばらつきが出るのはやむを得ないというふうに事務局としては考えているということですね。

事務局：はい。最初に提出があったときに、こちらでも調整をしまして、あまりにもこちらの意図とかけ離れているものは各担当部署と調整をして、最終的に決定したのが今皆様にお示ししているシートになります。

関根会長：皆さん細かくなってしまうかもしれませんが、見ていただいて、その点の評価などでご指摘あるものはご指摘いただいて、どういう形でリファインしていくのか、そこは事務局と相談しながら進めたいと思いますので、お手間になってしまいますが、一度ご覧いただいてその上でご検討いただければと思います。

関根会長：他にご質問ご意見等ございますでしょうか？よろしいですか。

---

4. 令和 7 年度進捗状況の評価について

関根会長：それでは次の事項としまして、令和 7 年度の進捗状況の評価についてということで、事務局からご説明をお願いします。

事務局：はい。それでは、令和 7 年度進捗状況の評価について説明させていただきます。資料 4-2 の 1 ページ目をお願いいたします。行革創成プランの評価につきましては、前回の審議会で議論していただいたものをもとに進めさせていただいております。今年度は令和 7 年度の進捗状況の評価となります。

スケジュール：

- 委員の皆様には、**6 月 15 日をめど**に意見シートを提出していただきたいと思います。
- その後、事務局で意見書案を作成し、次回の審議会でその内容を審議し、市長に意見書として提出する流れになります。

意見シートの記載例（6 ページ）：

- 表は左から、9つのテーマ、テーマごとの取組項目数、担当課自己評価平均値、自己評価平均値の合計、担当課自己評価の総合評価、委員意見の欄となっております。
- 例：テーマ 1「健全な財政運営と新たな財源確保」は4つの取組項目があり、「利便性・サービス」「業務効率・働き方」「費用対効果」「将来的価値」の評価項目で 5 段階自己評価。4つの取組の評価点数の平均はそれぞれ 4.3 点、1.0 点、4.3 点、4.3 点。合計が 20 点満点中 13.9 点で、総合評価は B となります。
- テーマごとの意見欄には、特筆すべきことがあればご記入をお願いします。
- 7 ページには、全体を通してのご意見をご記入ください。

意見シートを後ほど委員の皆様に改めて送付させていただきますので、**6 月 15 日**をめどに事務局にご提出いただければと思います。説明は以上でございます。

関根会長：ありがとうございます。56 個項目がございますが、56 個それぞれということではなくて、いくつかの項目でまとめられておりますので、例えばテーマ 1 で言うと4つあるわけですけども、その4つの取組全体で見て、全体としてどう評価されるのか、それに合わせて評価の中で「こういう点が気になる」とか、そんなことがあれば記載し

ていただければと思います。自己評価に照らして我々委員としてそれをどう見るかというものを、まとめた項目ごとにお示しいただくという形と、全体を通しての意見があればということでございます。

　これに関しまして、ご質問ご意見等ございますでしょうか？特段よろしゅうございますでしょうか？それでは、この形の中で一度皆さんに見ていただいて、6 月 15 日までにお出しいただくということにさせていただければと思います。

---

5. 全体を通じての質疑・閉会

関根会長：全体を通じまして、委員の皆様から何かご意見ご質問等ございますか。よろしいでしょうか？はい。それではないということであれば、本日の議題はこれで全て終了ということでございますので、事務局の方にお戻ししたいと思います。

事務局：大変ありがとうございました。先ほど事務局からの御説明の中で、委員の皆様に意見シートの提出をお願いしたところでございますが、不明な点がございましたら、随時事務局の方に問い合わせをいただければと思います。

　最後に今後のスケジュールということでございますけれども、委員の皆様からいただいたご意見を意見書案として取り入れたものを審議いただくため、次回の会議を **7 月頃**に開催させていただきたいと考えております。審議会の開催時期につきましては、改めてお知らせをさせていただきます。

　それでは以上をもちまして本日の審議会を終了といたします。大変ありがとうございました。